



后醍醐天皇

題字は社宝伝崇徳天皇ご宸筆
勅額の文字を模したものです。



五月雨の 晴れ間に出て 眺むれば

青田涼しく 風わたるなり

この歌の作者は江戸時代後期の僧侶
良寛さんです。

梅雨の晴れ間、青々とした稻の苗が
広がる田圃に、初夏の風が涼しげに吹
いている情景を詠んだものですが、私
には慣れ親しんだ地元西条の田園風景
の一場面のように感じられます。

近年、世界は未だ武漢に始まつた感
染症によるパンデミックや各地で繰り
返される戦争・紛争・桐喝などに加え
て自然災害も頻発し、未曾有の時代を
迎えています。

そして我が国の日常も大きく様変わ
りしました。神社界においても様々な
局面で新たな対応が求められています。
しかし乍ら、何事があつても変わ
事なく季節は廻り、良寛さんが青田涼
しく 風わたると詠んだ情景に込めた
思いは時代を超えて護るべき大切なも
のです。

私達もご先祖様達が千年二千年と護
り伝えてきた大切な「祈り」と「祭り」
を後世へ繋げていかなければなりません。
一日も早く日常が戻り、いつも通りの
祭りが斎行できることを切に祈つ
ています。

宮司 堀川修巧

表彰受賞者御芳名

年番表彰（神戸地区）

氏子総代 西垣 一 殿
佐々木 哲義 殿

白石 孝久 殿
佐藤 哲義 殿

鬼頭表彰（二〇〇年）

取締 曾我部 保次 殿

坂東 君良 殿
高木 守 殿

氏子総代勤続表彰（二〇〇年）

下町西 白木 基博 殿
朔南 德永 健二郎 殿

鬼頭委嘱状



奉納御礼

○原之前

さなぎPro 真木 捷太郎 様

屋台御輿模型一箱

○神拝地区
神拝年番 様

例大祭用襷五本、腕章二十枚

○新堀下 石水 瞳津美 様 提灯
M A I R I 写真ブック一冊

○新町 近藤板金 近藤 春吉・和子 様
○中寺 遥拝社千木新調、鰐木修繕

○北ノ丁下 上田 実 様 緒太鼓枠修繕

○一柳 美佐江 様
苗木五本（プリンセス雅桜、仙

○東原 台枝垂桜、花水木、白桃）

○山田 順 様 胡床五脚

○楠西 伊藤 勇 様 花瓶三壺

○新堀上 ○栄町上 北ノ丁上

○佐藤 秀之 様、眞鍋 哲夫 様
冊子三冊（吉原三本松のだんじりに見る曾我物語）

○森 森 胡 渡辺 伊曾乃大社祭禮絵巻説明

境内剪定・除草作業奉仕

春祭り子供屋台展示

春祭り前の境内清掃奉仕
神戸長寿会、神戸敬神会、神拝神友会、大町福寿会の皆様

下福古墳周辺清掃奉仕
西條史談会有志の皆様

春祭り餅つき奉仕
神戸敬神会の皆様

会館道路沿道除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内掘削作業奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕（毎月）
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
菅晋策 様

境内除草奉仕
矢野 素近 様

すすはらい神事
敬神婦人会の皆様
正目前の境内清掃奉仕
神戸長寿会、神拝神友会の皆様
神門前門松奉製指導
伊藤 勇 様

大注連縄奉製
神戸長寿会の皆様

手水舎柄杓置き竹細工奉製
矢野 素近 様

左義長神事片付け
加藤 武司 様

境内掘削作業奉仕
菅晋策 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
菅晋策 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
浅田 秀隆 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

境内除草奉仕
曾我梢・強 様
ご家族

境内除草奉仕
日野 信二 様

申込御礼と
ご協力のお願い

環境整備奉仕有志会
代表代行 日野 信一

当会は、古くから鎮座されている
氏神様の神社を末永く受け継いでいる
組もとの趣旨で昨年七月から奉仕

活動を始めた団体です。
広大なご神域を末永く定期的に手
入れするため、本年三月の春季氏子
総代会の席をお借りして本会にご協
力を戴けます方を募集したところ十
五名のお申し込みを、更には参拝に
お越しの五名の方々からも頂戴する
ことができました。誠にありがとうございます。

向後、安全第一はいうまでもなく、
本会の趣旨であります無理のない
時間に気軽に参加できる「自由参加
型」の活動スタイルで、ご参加下さ
った皆さんが和気あいあいとした雰
囲気で活動をすすめて参りたく存じ
ます。

氏子と
氏神との
繋がりを
大切に、
末永く活
動できま
すよう引
き続きご
協力を宜
しくお願
い申し上
げます。



昨年の活動



祭事暦

(令和4年6月～令和4年11月)

六月

一日

朔日祭

十五日

古神札焼納祭

三十日

大祓式

十三日

月次祭

十五日

夏越祭

十五日

月次祭

十五日

瑞枝神社例祭

十七日

月次祭

十五日

月次祭

十五日

月次祭

九月

月次祭

十月

月次祭

十一月

月次祭

十二月

月次祭

一月

月次祭

二月

月次祭

三月

月次祭

四月

月次祭

五月

月次祭

六月

月次祭

七月

月次祭

八月

月次祭

九月

月次祭

十月

月次祭

十一月

月次祭

一二月

月次祭

三月

月次祭

四月

月次祭

五月

月次祭

六月

月次祭

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模の縮小または延期若しくは参列者を限定する場合があります。予めご了承ください。

社頭点描

令和四年お正月

昨年より参拝者数は増加したものの、コロナ禍に加え四日から仕事始めの企業も多く、賑わいも三が日のみでした。

近年多発する豪雨などで災害が発生した場合に、加茂川周辺住民の避難を目的とした施設利用の協定を、二月二十二日に神戸連合自治会（徳増 稲養一 会長）と締結しました。

市の指定する避難場所は加茂川付近ではなく、周辺住民は北西部の神戸公園や神戸小学校などへ洪水や土砂崩れが想定されるルートを通って避難する必要がありました。

特に、毎年のように発生している集中豪雨では短時間のうちに加茂川が激流と化すばかりでなく、雨水の流入による水路の越水や路面の冠水などの内水氾濫も発生しています。

こうした災害から身を守るため、連合自治会では協議を重ねてこられた結果、市が公表している洪水ハザードマップで被害の想定がない当社の境内を安全な避難所と定め、今回の締結となりました。

古代の氏人が災害のないこの地を聖域と定め、神祀りをしてより一八八〇年以上上の歴史を紡いきました。今の世も、氏神が氏子氏人を守護することに変わりはありません。

開運春祭

神天皇祭にあたる四月三日に斎行されました

が、予定していた子供屋台の奉納は感染拡大により急遽中止となってしましました。



地域防災への取り組み

災害時の施設利用を締結



盛岡八幡宮の山車

前回紹介した東北地方の創作型風流山車以前に出ていた風流山車は、現在も東北地方で運行されている。岩手県盛岡市八幡宮のダンジリは、先頭に一对の大提灯次に女子の錫杖行列続いて横笛集団、摺り鉦、山車は人形を中心にテーマを決めて装飾をし、前面に和太鼓5個後ろ面は大太鼓を大人2人が打ち、南部木やり節で運行する二輪車で風流山車と呼ぶ。

福岡県を代表するダンジリは担ぎ山笠であるが、曳山笠も多く出ており風流山車に入れた。北九州市八幡東仲宿八幡宮に出ていた山笠は大太鼓2、鉦、笛数名のお囃子で運行する。



鳥谷崎神社山車

花巻市鳥谷崎神社に出ている風流山車は、数多くの女子の奏でる花巻囃子で運行し花巻まつりと呼ばれる。

いよいよ西条だんじり祭り編著者 村上 俊行

三、愛媛県外に出ているダンジリを訪ねる⑥ 曳ダンジリ【その1】風流山車(2)



北九州市八幡西木屋瀬須賀神社に出ていた山笠は大正年間に出来るようになり、黒田藩の出陣を表し太鼓のみのお囃子である。遠賀郡芦屋町岡湊神社に出ていた山笠は大太鼓2、鉦のお囃子で運行する。お囃子については博多のダンジリの流れではお囃子は無く、鉦太鼓笛三味線などのお囃子は大分の流れとも伺つた。



仲宿八幡宮山笠



岡湊神社山笠



須賀神社山笠

西条祭りを考える(1)

祇園祭と疫病退散

愛媛大学法文学部教授 胡 光

七月は京都祇園祭の季節。一日の吉符入り神事に始まり、三十日の夏越祓で茅の輪をくぐつて無病息災を祈り幕を閉じるまで、八坂神社を中心に、一ヶ月に及ぶ日本を代表する伝統文化が継承されている。

十七・二十四日の山鉾巡行が有名であるが、私はその前の宵山が好きだ。各町で山や鉾を飾り付け、提灯に火を入れ、鉦・太鼓・笛で囃し立て、祭礼気分を盛り上げる。さらに、国指定重要文化財にもなっている飾幕などが直接間近に見られるのである。鉾によつては、有料で内部に乗せてくれるので、すっかり気持ちは京都町衆になつてしまふ。前祭二十三基・後祭十一基ある山鉾を、がんばれば一夜で見物することは可能である。

祇園祭の起源は、一般に平安時代の貞觀十一年(八六九)、疫病退散を祈つて、実物の鉾(武器・祭器)を立てたのが始まりとされる。この年は、大地震で東北に大津波が襲つた年である。地震と疫病の関係も気になる。しかし、記録に残るのは、この世に怨みを残して亡くなつた人々の靈魂を鎮めるため、御靈会として、天禄元年(九七〇)、もしくは天延二年(九七四)に始まつたとする記事である。

全国各地の祭礼、特に楽車系や山系の屋台を

奉納する祭礼の起源を、祇園祭にならつてと伝えるものは多い。しかも、祇園祭創始から間もない平安時代に伝播したと伝えるところも少なくない。このような伝承は、確実に間違いである。

「祭」は、災害・病魔の退散や大漁豊作などを神に祈願する秘密の神事であるが、見物人が多くなるにつれ、神輿やその周りを彩る、山・鉾・樂車・太鼓台・牛鬼などの造形物が注目されるようになり、見られる「祭」へと形を変えていく。祭(神事)が祭礼(行列)になるには、都市の成立が必要であり、全国に城下町が誕生した時代こそ、祭礼の時代である。都市には、疫病がつきもので、夏祭には、疫病退散を願うものが多い。

そもそも、祇園祭自体の歴史をふりかえれば、当初は獅子舞や田楽踊りを伴う騎馬行列である。今日につながる「山鉾二基」が記されるのは、鎌倉時代末の元亨元年(一二三二)のことであるが、形態は明らかではない。南北朝時代の貞和元年(一一四五)によつやく「山以下の作り物」が確認され、以後「鉾・山・船」の文言が登場する。そして、戦国時代に向かう、応仁の乱による長い中断を経て、十六世紀に町衆が復活させた山鉾三十六基の祭礼こそ、現代に直結する祭礼形態と言えよう。これより早く同様の祭礼が地方に出現することはありえない。

各地の祭礼の古い記録は、江戸時代中期十八世紀のものが多いた。寛政十年(一七九八)に刊行された『摂津名所図会』に、「車樂」(樂

車)は河内誉田祭に始まるとあり、無理に京都起源と考えるより、当時全国市場の中心であつた大坂起源と考えた方が自然である。大坂へ米や商品を運んだ千石舟は、帰りに新しい文化を地方へ持ち帰つた。

緩やかで優雅な祇園囃子は、各地の祭礼発展の陰で失われた、往古の旋律を伝えている。二年間、新型コロナウイルスの影響で神事のみが実施され、山鉾巡行など一切の祭礼が中止された。十月の伊曽乃神社例大祭も、同様の対応であつた。祭礼(行列)から本来の祭(神事)に戻つた二年間、全国の神事によつてコロナが終息することが祈られた。

本年四月、祇園祭山鉾連合会は、七月に山鉾巡行を催行することを発表した。神事の作法、山鉾の組み立て、囃子、提灯の制作など、祭礼に関わる伝統文化は幅広い。祭礼の中止は、伝統文化継承にも大きな影響を及ぼす。伊曽乃神社をはじめ、全国で祭礼が無事に実施され、街に祭囃子が戻ることを願う。

(えべす・ひかる／西条市本町)



京都祇園祭の月山鉾



新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は一変いたしました。あたりまえの事が何もできないという日々を過ごすことになり、今までの生活のありがたさを感じる日々です。敬神婦人会も通常の活動を行なう事ができず、会員の皆様には休会という形を余儀なくされ、敬神婦人会の要でもある、会員間の交流ができない状況が続いております。

然し乍ら、敬神婦人会として氏神様である伊曾乃神社の大神様の少しでもお力になりたいという思いから、十二月十三日の「すすはらい神事」には人数をできる限り最小限にして、各自が感染対策を講じて一人ひとりができるところの掃除を行いました。寒い時期で、体に負担のかかるところもありました。いつも私たちを見守ってくれている氏神

日頃より伊曾乃神社敬神婦人会に対するご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は一変いたしました。あたりまえの事が何もできないという日々を過ごすことになり、今までの生活のありがたさを感じる日々です。敬神婦人会も通常の活動を行なう事ができず、会員の皆様には休会という形を余儀なくされ、敬神婦人会の要でもある、会員間の交流ができない状況が続いていると

二月十一日の紀元祭では、敬神婦人会の恒例行事である小豆粥のふるまいを行いました。

こちらも感染対策として祭典の参列者が制限された中での活動となりました。密を避ける為にたくさんの方に告知をする事ができない状況となり、例年通りの人数とはいきませんでしたが、小豆粥を食べた参拝者の方々から、笑顔でとても美味しいというお言葉をいただきました。皆様の笑顔を見る事ができた事が、敬神婦人会としてもうれしく思える活動となりました。

伊曾乃神社の大神様の御加護の下、新型コロナウイルスの一日も早い終息を願い、あたりまえの日常を取り戻し、敬神婦人会の活動も通常に行なう事を切に願っております。

これからもご指導・ご協力・ご支

敬神婦人会通信

様へ感謝の気持ちをもちながらすすはらいを行い、気持ちの良い一日となりました。また久しぶりの敬神婦人会としての活動を行う事ができ、大神様への感謝の気持ちでいっぱいとなりました。



ご存知ですか 続 氏子区域の鎮守さま

天神地祇探訪 その一

明比神社（あけひじんじや）

鎮座地 西条市中野甲 日明

御祭神 明比善兵衛家茂

前号までは当社の兼務する神社のご紹介でしたが、今号からは当社神職が祭礼を奉仕する非法人の神社や祠です。第一回目は明比神社です。

伊曾乃神社前の宮前橋を国道十一号線の中野交差点へと進むと左手に県史跡の土居構を、道路を挟んだ真向かいに日明集会所が見えてきます。明比神社は、日明集会所前の小道を少し入ったところに鎮座されており、明比一族の守護神です。

御祭神の明比善兵衛家茂は、神社の南方に位置する高外木（高峠）城主の石川氏の家臣として

て仕え、天正十三年に豊臣秀吉の命を受けて当地に侵攻してきた小早川隆景率いる軍勢との戦い、「天正の陣」で討ち死にした武将です。

氏族にあたり郷土史家でもあった、故明比学氏の研究によれば、明比家は今治市大三島町明日の出身で今治市波方町や西条市中野へ分派した武将であり、明比姓を名乗る一族が多いことや、一族の暮らす周辺には、砦や城郭などの遺構も残っているなどの共通点も挙げています。

現在も、郷土防衛のために命を落とされた祖靈に対する尊い崇敬の念厚く、旧暦八月六日の祭礼には北は北海道から、南は九州沖縄、ときには海外からも一族が一同に会し、夕刻厳かに祭禮の執行がなされます。



伊曾乃神社の大神様の御加護の下、新型コロナウイルスの一日も早い終息を願い、あたりまえの日常を取り戻し、敬神婦人会の活動も通常に行なう事を切に願っております。

これからもご指導・ご協力・ご支援を宜しくお願ひいたします。

祈 疫病退散

夏越祭 7月13日(水) 夕刻より午後8時まで
 (旧暦6月15日)
 伊曾乃神社にて執り行います

神事に先立ち、小神輿は旧斎場
 (加茂町 加茂川原) まで巡幸し、
 新斎場予定地 (伊曾の橋東川原)
 に駐輦ののち還御します。



期間を延長しております
 午前6時～午後5時まで
 ご自由にご参拝下さい

7月6日～7月20日まで
 (祭礼の前後一週間)

お問い合わせ先：伊曾乃神社々務所
 (TEL0897-55-2142)

七夕笹飾り

7月6日～8月7日まで

社務所で短冊を頒布します

初穂料 100円

願いが叶いますように……



発行

伊曾乃神社社務所
 〒793-0054
 西条市中野甲一六四九
 電話 〇八九七-五五二二四一
 ○八九七-五六一四七六一
 FAX
<http://www.isonojinja.or.jp/>